



東京大学連携研究機構ヒューマニティーズセンター  
潮田ヒューマニティーズイニシアティブ「公募研究 A」成果報告書

**研究課題(和文)**: 紛争下の性的暴力・搾取の刑事的・内部規律的アカウントビリティにおける国連とアフリカ連合の連携についての研究

**研究課題(英文)**: Cooperation between the United Nations and African Union on the individual criminal and disciplinary accountability for sexual violence

**申請者名・所属先**: キハラハント愛 総合文化研究科地域文化研究専攻

**海外招聘者名**: Róisín Sarah Burke

### 1. 研究の目的

アカウントビリティの課題についての国連と地域機関(特にアフリカ連合)、また、国連加盟国との連携について、どれだけ効果的に性的暴力・搾取のアカウントビリティを達成できているのかという問いに答えることを、本プロジェクトの目的とした。

### 2. 研究開始当初の背景

申請者は本プロジェクト開始前から国連の要員による犯罪と性的暴力・搾取の訴追についての研究を進めて来た。データと法・国連の内部規律・国連加盟国の国内法についての研究と、国連の犯罪を扱う制度と性的暴力・搾取を扱う制度について、詳細な研究が既に出来ていた。ヒューマニティーズセンターの第一回企画研究プロジェクトにおいて、これに社会学的な視野を付加し、また、国連の性的暴力・搾取の業務に関わる幹部とのラウンドテーブル会議を実現し、全体像がより明確になった。そこで、この問題のアフリカ連合とジェンダーについての専門家である共同研究者と共同で研究を進め、プロジェクト開始前に認識された最大の問題である、アカウントビリティの課題についての国連と地域機関(特にアフリカ連合)との連携、また、国連加盟国との連携について、どれだけ効果的に性的暴力・搾取のアカウントビリティを達成できているのかを研究することが必要となった。

### 3. 研究の方法

研究の方法は、文献調査とフィールドにおけるインタビュー調査の手法を予定していた。

1. 文献調査としては、申請者が、国連内部での、犯罪の情報を扱う機関(平和活動に関わる機関、法の支配に関わる機関、マネジメントと内部規律に関わる機関、監査に関わる機関、法務機関、性暴力に関わる機関、ジェンダーに関わる機関)について、法・規定・制度についての必要なアップデート(現在進行中の国連の内部改革のため)と、国連が地域機関と協力する規定・制度とその実践についての研究をした。(2) 共同研究者は、同様の内容をアフリカ連合内部から調査した。(1)と(2)両方において、申請者の強みである国連、特に国連警察について、また、国連加盟国の国内法についての専門知識と、共同研究者の強みであるアフリカ連合、特に軍事部門とジェンダーについての専門知識とを相互に補完しあった。



2. インタビュー調査としては、研究開始時点では、研究がある程度進んだ時点でアフリカ連合の本部のあるアジスアベバにフィールドを訪れ、アフリカ連合において犯罪、性暴力、性的搾取、ジェンダー、マネジメントと内部規律、法務、に関わる機関の幹部へのインタビュー調査を行い、内部規律など、外部からはアクセスしにくい資料を探すと共に、実際どのように規律が理解され、どのように施行されているのかを詳らかにする予定であった。しかし、コロナウィルスの蔓延と、それに伴う旅行制限などにより、アジスアベバに赴くことが不可能となったため、この部分はオンラインのインタビューに切り替えた。

#### 4. 研究成果

1. 文献調査としては、申請者が、国連内部での、犯罪の情報を扱う機関（平和活動に関わる機関、法の支配に関わる機関、マネジメントと内部規律に関わる機関、監査に関わる機関、法務機関、性暴力に関わる機関、ジェンダーに関わる機関）について、法・規定・制度についてのアップデートと、国連が地域機関と協力する規定・制度とその実践について、国連の事務総長がグテレス事務総長になってからの研究論文や書籍、国連の文書を読んで研究した。

2. 共同研究者は、同様の内容をアフリカ連合について研究した。アフリカ連合についての書籍や論文は非常に少ないので、主にアフリカ連合の関連文書を読み、研究した。

3. インタビュー調査としては、国連の性的暴力・搾取のアカウントビリティに関わる部署の幹部にインタビューを行った。合計 16 人にインタビューを行った。アフリカ連合において犯罪、性暴力、性的搾取、ジェンダー、マネジメントと内部規律、法務、に関わる機関の幹部へのインタビューは、国連やアフリカ連合を通じて、またこの分野で働くコンサルタントを通じて連絡を取り、メールでのやり取りはできたがインタビューは実現しなかった。

4. ヒューマニティーズセンターで 2 回セミナーを行い、うち 1 回は国連事務次長補で被害者の権利アドボケートの Jane Conors 事務次長補と対談した。学会発表、共同研究者との共著論文については以下の通り。

#### 5. 主な発表論文等

〔図書〕 'An Alternative Approach: the AU's SEA Regulatory Framework' in Alexander Gilder, David Curran, Georgina Holmes and Fiifi Edu-Afful (eds), *Multidisciplinary Futures of UN Peace Operations* (2023 expected)

〔雑誌論文〕 執筆中

〔学会発表〕

Ai Kihara-Hunt, "Analysis of assumptions of UN policies on sexual exploitation and abuse", Academic Council on the United Nations System, Annual Meeting, June 2022

Ai Kihara-Hunt and Roisin Burke, "Peacekeeper Sexual Exploitation and Recent Developments and Cooperation between UNAU Frameworks", Academic Council on the United Nations System, Annual Meeting, June 2021



## 6. 招聘フェロー(海外招聘者)からのコメント

Over the past couple of years Professor Kihara–Hunt and I have been working on a joint project on UN–AU Partnership on Sexual Exploitation and Abuse. The research examined policy and practice regarding SEA across the UN and the AU peace operations, particularly focusing on recent developments in the AU’s policies and resultant SEA regulatory framework. The research was frustrated by the COVID situation, as we were unable to conduct field trips and engagements as planned. Nevertheless, we continued working remotely on the project, holding two virtual seminar events. The first, titled ‘Peacekeeper Sexual Exploitation and Abuse: Recent Developments and Cooperation between UN–AU Frameworks,’ took place on 20 November 2020, hosted by the University of Tokyo’s Humanities Center. The second seminar (‘Recent shifts in the UN’s Approach to Accountability for Misconduct and Sexual Exploitation and Abuse’) took the form of an online presentation and discussion with the UN SEA Victim’s Rights Advocate, Jane Connor. This online event was held on 7 January 2022, again hosted by the University of Tokyo Humanities Center.

Resulting from the project, some of the project findings focusing on the AU’s SEA policy and regulatory response have been set out in a book chapter titled ‘An Alternative Approach: the AU’s SEA Regulatory Framework’. This has been accepted for inclusion in the forthcoming (2023) edited book volume titled, *Multidisciplinary Futures of UN Peace Operations*. Relatedly, contributing authors will part–take in a workshop at the University of Reading in the UK on 18 November 2023. We will present our work virtually as part of a panel at this event. Drawing on issues arising in the duration of research, we are in the process of drafting a second paper for publication in an international journal. This examines issues regarding vetting and screening of peacekeeping personnel, the UN’s due diligence policy’s application, and the re–hatting of peacekeepers from a regional organisation to a UN operations, given complexities that arise in terms of dealing with conduct and discipline issues and possible human rights violators in such contexts.